



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
佐賀県ユニセフ協会通信 (No. 103) uniwish30号 (2019年4月)
佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号
(電話・FAX) 0952-28-2077
(業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00
E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>
facebook <http://www.facebook.com/unicef>



© UNICEF/UN0271176/Diffidenti
リビア・ベンガジ中心街の瓦礫の中を走る子ども。(2018年3月撮影)

ユニセフ 2019年の人道支援計画発表

59カ国の子ども4,100万人を支援へ

【2019年1月29日 ジュネーブ／ニューヨーク発】

ユニセフ（国連児童基金）は、紛争や自然災害などの影響を受ける国に暮らす何百万人もの子どもたちが、必要なサービスを受けられず、彼らの安全や幸福、そして将来は危険に晒されていると警鐘を鳴らし、人道危機の中で暮らす子どもたちのために2019年の人道支援計画を盛り込んだ、『子どもたちのための人道支援報告書（Humanitarian Action for Children-HAC）2019年』を発表し、39億ドルの資金が必要と訴えました。

紛争や自然災害などの危機下で、人道支援を必要としている子どもたちは、世界59カ国に4,100万人。こうした子どもたちは、想像しがたいほどの恐ろしい暴力や苦痛、トラウマに苦しみ、保健や教育など必要なサービスを受けられず、将来を危険に晒されています。

ユニセフは、子どもたちの命と権利を守るため、特にこうした最も弱い立場に置かれた子どもたちを最優先に、保健、栄養、教育や子どもの保護の支援を提供するため、最前線で活動しています。

2018年の支援成果として、ユニセフは、人道支援を必要とする3,530万人に安全な飲料水を、590万人の子どもに教育の機会を、470万人の子どもにはしかの予防接種を、310万人の子どもと保護者に心理社会的ケアを、260万人の重度の急性栄養不良の子どもに治療を提供しました。日本の皆さまはじめ、世界中の方々からお寄せくださったご寄付は、危機下にある子どもたちの命を守るためのこうした人道支援活動の支えとなっています。



© UNICEF/UN0203970/Jeelo
イラク・アンバール県の国内避難民キャンプで、医者になる夢のために勉強する12歳のモハメッド君。(2018年4月撮影)



© UNICEF/UN0235944/Nybo
コンゴ民主共和国・ベニの学校で、エボラ出血熱から自分を守る方法を学び、手洗いをする子どもたち。(2018年9月撮影)

そして2019年の人道支援計画として、「400万人に心理社会的ケアを提供」、「約4,300万人に安全な水を提供」「1,010万人の子どもに教育を提供」など具体的な目標を掲げています。

ユニセフの今年の人道支援計画の中で、最も大きな資金を必要としているのは、シリア難民とその受け入れ国であるエジプト、ヨルダン、レバノン、イラク、トルコの9億400万米ドル、イエメンの5億4,230万米ドル、コンゴ民主共和国の3億2,610万米ドル、シリアの3億1,980万米ドル、そして南スーダンの1億7,920万米ドルです。

ユニセフは、2019年の子どもたちのための人道支援計画として、パートナー団体と協力し、以下の活動を行っていきます。

○400万人の子どもたちと保護者に心理社会的ケアを提供

○約4,300万人に安全な水を提供

○1,010万人の子どもたちに公式・非公式の基礎教育を提供

○1,030万人の子どもたちにはしかの予防接種を実施

○420万人の重度の急性栄養不良の子どもたちを治療

誰ひとり取り残さない…すべてにおいて子どもの保護を中心に

子どもたちが必要とする支援を提供することが喫緊の課題ですが、国際社会が決定的かつ持続的な行動に移さなければ、多くの子どもたちはこれからも置き去りにされていくでしょう。ユニセフは「人道危機緊急募金」に取り組んでいます。皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。



私たちの生活に深く浸透しているインターネットは、子どもたちにも様々な恩恵や機会を提供しています。その一方で、子どもたちはインターネットを通じて有害なコンテンツと接触したり、性的搾取の被害に遭うといったリスクにも直面し、被害も後を絶ちません。

インターネットを、特に子どもたちにとって安心・安全なものとするために、欧州委員会の呼びかけで2004年に始まったのが、毎年2月の「セーフアーインターネットデー」です。現在では、世界100カ国以上で、インターネット上の子どもの安全に関する啓発活動などが行われています。

児童買春や児童ポルノ、児童の人身売買問題をきっかけに、積極的にインターネット上の子どもの安全・安心に取り組んできた日本ユニセフ協会も、2017年から関係団体と協力して、この日に合わせた活動を実施しています。今年の「セーフアーインターネットデー」にあたる2月5日に開催した「Safer Internet Day 2019 シンポジウム」には、NGO、教育関係者、ICT関連企業、関係省庁、地方自治体も参加し、児童ポルノやリベンジポルノ等に対する官民の取り組み、関係者間の連携を含む様々なテーマについて、活発な議論を行いました。

2月5日はSafer Internet Day 世界の若者の70%がインターネットを利用 ユニセフ、ネット上の子どもの保護求める

【2019年2月5日 ニューヨーク発】

ユニセフ（国連児童基金）は、Safer Internet Dayにあたる2月5日、世界の15歳から24歳の子どもと若者の70.6%がインターネットを利用して、ネット上での暴力、いじめ、デジタル・ハラスメントなどの脅威に晒されていると警鐘を鳴らし、暴力に対処し予防するために協調して行動するよう要請しました。



© UNICEF/UN061370/De jongh
携帯電話で写真を撮るコートジボワールの子どもたち。(2017年3月撮影)



© UNICEF/UN040855/Bicanski
携帯電話ゲームで遊ぶセルビアの子どもたち。
(2016年11月撮影)

世界の若者の70%がインターネットを利用

この要請は、ユニセフが最近実施した調査に世界160カ国以上の100万人を超える若者から寄せられた声や、世界各地で子どもたちの主導で実施された#ENDviolence Youth Talksシリーズと呼ばれる対話集会を通じて集められた数々の提案を基にしています。若者たちは、自分たち自身、親、先生や政治家が、若者の安全を守るために何ができるのかについて思慮深い回答を寄せました。中でも、いじめやネットいじめを防ぐために最も強力な手段の一つとされたのが、「優しさ」でした。

「私たちは世界中の子どもと若者の声を聞きました。彼らの意見ははっきりしています。インターネット上には優しさが枯渇しているということです」とユニセフ事務局長ヘンリエッタ・フォアは述べました。

「Safer Internet Dayの今日、ユニセフは、若者たちにならい、すべての人に、インターネット上で他者に優しくするよう呼びかけます。そして、インターネットがすべての人々にとって安全な場所にするためにさらなる行動を取るよう求めます」

インターネットは、所得レベルに関係なく、若者の生活に欠かすことができないものになりました。国際電気通信連合(ITU)によると、先進国に暮らす15歳から24歳の若者の94%はインターネットに接続しており、途上国ではその割合が65%以上です。これは人口全体のインターネット利用率よりもかなり高い割合です。世界の人口全体では、半数がインターネットに接続しています。

ネット上の子どもの保護求める

インターネットの急速な普及は、リスクの増加を伴います。高所得国におけるインターネット上でのいじめの広がりに関するユネスコのデータによると、ネットいじめの影響を受ける子どもと若者の割合は5%から21%で、男の子より女の子の方がより影響を受けやすい傾向があります。日本では、15歳から24歳の99.3%（女子が99.7%、男子が98.9%）がインターネットを利用し、15歳未満で83%と、低年齢化も進んでいます。ネットいじめに遭うのはより年齢の高い子どもたちかもしれませんが、低年齢の子どもたちも、有害なコンテンツ、性的搾取や虐待、ネットいじめと無関係ではありません。

ネットいじめは、急速に広く拡散し、永久的にネット上でアクセスでき、被害者を文字通り生涯にわたり「追いかける」ことができるために、深刻な被害を与える可能性があります。いじめとネットいじめは連動し、切れ目なく被害者を苦しめます。ネットいじめの被害者は他の生徒よりも、アルコールや薬物の使用や、学校を休む傾向が高くなり、成績の低下、自尊心の低下や健康上の問題を経験する傾向もあるとも言われます。最悪の場合、自殺に追い込むこともあるのです。Safer Internet Dayの今日、ユニセフはすべての人々に対して、日常とインターネット上の両方において、優しさは私たち一人ひとりに課せられた責任であることを訴えます。

【資料提供：日本ユニセフ協会】



佐賀県ユニセフ協会創立25周年

「佐賀でもユニセフの灯を……！」と、ひとりの母親の熱い思いがきっかけで、この地でユニセフの活動を始めてはや4半世紀、25年がたちました。これまで支えてくださった全ての皆様に心より感謝申し上げます。

当時、開発途上国では2秒に一人の割合で、予防注射やワクチン・手洗いなどで簡単に予防できる病気が原因で亡くなっていく子どもたちがいました。

当時の死亡原因のトップは下痢でした。子どもは下痢そのもので死ぬというよりも、下痢による脱水症で命を落とします。脱水症から救うにはORS（経口補水塩）1袋10円（当時の価格）を、1ℓの湯冷ましに溶かして下痢が止まるまでひと匙ずつ辛抱強く飲ませることで腸内の吸水力は25倍も高まり子どもを死なせないですむ、10円で助かる命があるということ、今、目の前で子どもが苦しんでいて、その子の命が10円で救えるならその10円を惜しむ人はいないのではないか、そのことを佐賀の皆様伝えていき、子どもの命を守りたい。子どもの死亡数が減少したら人口爆発にも歯止めが働くということも私たちは学びました。

1993年10月16日「はじめの一步」として、小城町立桜岡小学校にてパネル展・ユニセフカード頒布でスタートして以降、バザー、街頭募金、勉強会等一年間の準備期間を経て、創立への道筋ができました。

1994年10月31日、県単位の地域組織「財団法人日本ユニセフ協会佐賀友の会」の創立。

2004年4月10日に「財団法人日本ユニセフ協会佐賀友の会」から「財団法人日本ユニセフ協会佐賀県支部」へ移行。

2014年4月1日財団法人日本ユニセフ協会の公益財団法人への移行に伴い、「公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織佐賀県ユニセフ協会」へと名称変更。

そして、本年、25周年を迎えます。25年前よりずっとご指導をいただいた中尾清一郎会長（佐賀新聞社社長）はじめ、お支えいただいた役員の皆様、ドナーの皆様、ボランティアの皆様、すべてのご協力いただいた皆様にこれまでの感謝とこれからの発展を期して下記の通り創立25周年記念事業を開催します。

皆様、ぜひご来場いただきますようご案内申し上げます。



1994年10月31日佐賀新聞社にて創立総会

ゲストは1994年のルワンダジェノサイドで子どもたちを守り生き抜いてこられた永遠瑠・マリールイズさんとルワンダの国民的ミュージシャンとしてご活躍のマニ・マーティンさんです。（詳細はチラシをご覧ください）

ご案内

佐賀県ユニセフ協会創立25周年記念講演会 共に生きる未来をつくろう ～ルワンダの悲劇から学んだ教育の大切さ～

1. 期日 6月15日（土）13：30～16：30（開場13：00～）
2. 場所 佐賀県立美術館ホール
3. 入場料 無料（事前申し込みをお願いします。整理券を発行します。）
tel 0952-28-2077 月・火・木・金の10：00～15：00
fax 0952-28-2077 E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
詳細は、チラシ裏面をご覧ください。
4. 記念式典
5. ゲスト ★ 永遠瑠・マリールイズさん
講演「共に生きる未来をつくろう～平和と教育～」
★ マニ・マーティンさん
「平和の道コンサート」
★ 高等学校ジャンベ部の皆さん（オープニング出演）
「響け！アフリカの鼓動！」



永遠瑠マリールイズさん



マニ・マーティンさん



ルワンダの国旗

〈主催：佐賀県ユニセフ協会創立25周年記念事業実行委員会〉



2018年度「さが国際フェスタ」に参加

- 1月27日（日）武雄 international Day
【ワークショップの内容】
*「世界の人々と未来をつくる」
*ワークショップ“SDG s カードゲーム”
＜武雄文化会館＞



- 2月11日（月） イエローシートキャンペーン
＜イオン大和店＞
○ 2月15日（水） 佐賀県立ろう学校中学部の生徒さん
2人と引率の先生3人が事務所訪問
“ユニセフ学習”
「SDG s ・ユニセフと わたし」



- 2月16日（土）、17日（日）レッドトルネード募金活動
トヨタ紡織九州レッドトルネード選手による募金活動
第43回日本ハンドボールリーグ佐賀大会にて
＜神埼市中央公園体育館＞



- 2月22日（金） 弘堂国際学園より 募金贈呈
※『弘堂祭』の収益の一部を募金として贈呈



厳しい生活をする子どもたちの
ために使ってください。

選手の皆さんは、試合
後すぐに募金を呼び
掛けてくださいます。

- 2月24日（日） V・ファーレン長崎 “ジャパネットDAY”
※ユニセフ広報活動
※ユニセフ募金活動
＜トランス・コスモススタジアム＞



- 3月1日（金） 柳川市立大和小学校募金贈呈とユニセフ学習
(1) 募金の贈呈（児童会のみなさん）
(2) 全校朝会でミニ研修会「ユニセフとわたし」
＜柳川市立大和小学校＞

- 3月7日（木） 小城市立三日月小学校出前授業
総合的な学習の時間 5年生 127人
「異文化交流」
～韓国、バングラデシュ、中国の文化や
国の特徴について～
＜小城市立三日月小学校＞



- 3月11日（月） 佐賀市立小中一貫校芙蓉校 ＜中学部1・2年生26人＞
*ユニセフ募金贈呈
中学生の募金活動の取り組みに小学生の協力も有
*ミニ研修 『世界のともだちと未来をつくろう』
＜佐賀市立一貫校芙蓉校＞



- 3月12日（火） J A佐賀県女性組織協議会からの「愛の募金」贈呈
家永会長から太田紀代子常務理事に贈呈
その全額をユニセフ募金とする
＜佐賀県JA会館＞



使用済み切手
や書き損じハガ
キもたくさんい
ただきました。

- 3月14日（木）～17日（日）2019「3・11わすれない」パネル展示
*展示内容 ＜アバンセ＞
「あのとき何が3.11」「原発事故」「悼む」
「明日へ」の4部構成



パネル展示＜アバンセ＞

- 3月23日（土）佐賀市北部児童センター
募金贈呈 & 使用済み切手贈呈
＜佐賀市北部児童センター＞





ご支援 ありがとうございます

麻生外語観光&製菓専門学校ブライダル・ウェディング科様 おへそグループ父母会・職員一同様
トヨタ紡織九州レッドトルネード様 母子草様 弘堂国際学園様 大和小学校様 中間東中学校様
小中一貫校芙蓉様 J A佐賀県女性組織協議会様 北部児童センター様

藤崎建設様 大塚製菓様 介護サービスセンターうえむら様 日本バプテスト連盟佐賀教会様
佐賀県民協働課様 佐賀県高等学校家庭クラブ連盟 門司歯科様 寿司どん様 循誘公民館様
シルバークリーニング様 ゆめぷらっと小城様 南川副婦人会様 カイセイ薬局伊万里店様
唐津市民病院きたはた様 新栄公民館様 佐賀県立ろう学校様 すぎの子文庫様 佐賀友の会様
ヘルスランチあららぎ様 日新公民館様 佐賀リハビリテーション病院様 佐賀市民活動プラザ様
佐賀県国際交流プラザ様 武井電機様 国際ソロプチミスト佐賀西部様 佐賀学生スーパーネット様
J A佐賀中央会様 (独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構様 佐賀県商工会連合会様
佐賀市役所高齢福祉課長寿推進課様 佐賀県地域婦人連絡協議会様 コープさが生活協同組合様
(順不同：2019年1月8日～2019年3月31日)

※ いろいろな形でのご支援ご協力に心から感謝申し上げます。
個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、
この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきます。



これからの予定

6月15日の25周年記念講演会には万障繰り合わせのうえご来場ください。

- 4月14日 (日) サガン鳥栖試合会場にてパネル展&募金活動 (鳥栖市 駅前不動産スタジアム)
- 5月3日 (金) 有田陶器市会場にてパネル展&募金活動 (有田町 今右衛門窯前)
- 5月19日 (日) ユニセフ・チャリティーバザー (佐賀玉屋デパート アーケード)
- 6月2日 (日) 鹿島ガタリンピック会場にて募金活動 (鹿島市海浜スポーツ公園)
- 6月14日 (金) 永遠瑠・マリールイズさん講演会 (致遠館高等学校・中学校)
永遠瑠・マリールイズさん講演会 (成瀬中学校)
- 6月15日 (土) 創立25周年記念講演会 (佐賀市佐賀県立美術館ホール)

賛助会員募集中！ 日本ユニセフ協会賛助会員としてご協力ください。

(公益財団法人日本ユニセフ協会の賛助会費は、ユニセフ募金や寄付金と同様、寄付金控除の対象になります。)

日本ユニセフ協会賛助会員とは

賛助会員の種類と期間

日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー (政策提言) 活動を担う日本ユニセフ協会を、賛助会費によって支援していただく協力方法です。賛助会員になってニュースレターや資料を入手して理解を深め、世界の子どもの状況やユニセフと日本ユニセフ協会の活動を知り、できる範囲で行動する機会にさせていただくことができます。

1. 一般賛助会員 1口 5,000円…個人の方が対象
 2. 学生賛助会員 1口 2,000円…学生の方が対象
 3. 団体賛助会員 1口100,000円…企業、団体、有志のグループなどが対象 期間は、1年ごとの更新。
- ✿詳細については、佐賀県ユニセフ協会までお問い合わせください。

ユニセフ・ブルキナファソ現地視察 報告 (2019. 2. 23～2019. 3. 4)



現地視察の目的

今回、ユニセフが支援をして成果を上げている国、ブルキナファソの視察に行きました。このスタディーツアーを通して、ブルキナファソの子どもや女性の状況や問題の原因を把握し、ユニセフ支援事業の現場での活動(プロジェクト)を理解することが目的でした。

佐賀県ユニセフ協会 江島 きよ子

ユニセフの使命

ユニセフは子どもの権利を守り、子どもが持って生まれた能力を十分に発揮できる機会を広げるために活動をする国際連合の機関です。

最も困難な状況にある子どもたちが特別な保護や必要な援助を優先的に受けられるように支援します。

unicef | for every child



- * 日本との時差9時間
- * 東京とワガドゥグ距離
13,309km
- * 飛行機乗り継ぎ
(2日間)



農村の様子



街の様子



ブルキナファソの国は、

高潔な人々の国

(ブルキナファソの意味)

●6か国と接した内陸の国

マリ、ニジェール、トーゴ、ガーナ、コートジボワール、ベナンに囲まれている内陸の国。60の部族からなる。資源に乏しく、主要産業がなく経済的にも厳しい状況。

●風俗習慣

国民の57%は伝統宗教、イスラム教徒は31%で、残り12%がキリスト教徒とされている。イスラム教徒はラマダン(断食)をする人もいる。一般にイスラムの戒律はそれほど厳しく守られてはいない。

●テロリストの攻撃で情勢不安定

マリと接する北部のサヘル地区や東部では2015年から500件のテロリストの攻撃があり、学校も襲撃され1,000校が閉鎖されている。コーランを教えるように圧力をかけてきている。2019年2月に宣教師の殺害やNGOの人の誘拐事件が起こっている。

●生活、教育などの状況

1日1.90米 \$ 未満で暮らす人の割合(%)は、44%

5歳未満児死亡率(1,000人中) 85人

成人識字率 (%) 35%

基礎的衛生トイレを利用する人(%)は、23%

初等教育就学率(%) 69%.

【ブルキナファソにおける子どもの状況】

ブルキナファソは2,032万人の人口を抱える世界最貧国の一つで、UNDPの2018年人間開発指数(HDI)によると、**189か国中183位で、最貧国である**。人口増加率が高く、内陸国なため経済的に不利な状況に置かれており、国全体の状況と同様に、子どもや女性の状況に関して多くの課題を抱えている。

視察の主な内容

ユニセフが、ブルキナファソにおいて特に支援をしている**子どもの保護、教育、栄養・保健、水と衛生**のプロジェクトについて、15か所を視察しました。

その中から支援が成果を上げている顕著なプロジェクトをここでは紹介します。



子どもの保護



教育



栄養・保健



水と衛生

★ 子どもの保護に関わる支援事業

●採石場には、小さな子供を持つ夫婦や、大家族、離婚・死別などによる片親家庭も多い。また、母親に帯同している小さな子供や、自分で働いている10代の少年少女も非常に多い。ここでの労働環境は「最悪の形態の児童労働(the worst form of child labor)」とみなされ、子供たちは教育、肉体的・精神的健康や発育、その他の危険からの保護などといった権利を侵害されている。

●これらの子供のために、非営利団体CN / AEJTBはユニセフの支援を受け意識の向上、住民の能力向上、就学前および小学校への就学支援、職業訓練などを行っている。



(採石場で石を運ぶ女性)



① ビソング相互保育施設

ビソング採石場に母親に帯同して来る小さな子どもたちのための保育施設。



② 社会復帰センター-CEREMICOL

法に抵触した未成年に対し保護と教育、社会復帰のための支援を提供する機関として設立された施設。

★ 教育への支援事業(スクール for アフリカ)

- ブルキナファソは教育においても最も遅れをとっている国の1つである。この状況を受けて、日本ユニセフ協会は2013年より「**スクール・フォー・アフリカ**」プログラムによって支援をしている。
- 義務教育の年齢である3-16歳の子供の教育を支援、学校建設や資材整備による「子供に優しく、質の高い学校」を目指し改善を実施している。

【児童生徒数】【先生32人】

幼稚園	45人
小学A	527人
小学B	370人
中学	379人
合計	1321人

① 「ソルゴアミティエー貫校」(スクール for アフリカ)

- 質の高い教育を提供するためのモデル校。
- 教員研修・学校運営・教員の労働環境改善等のソフト面と、学校建設等インフラ整備を行うハード面から成り、教育も充実している。児童・生徒数も多く、活発である。



ソルゴアミティエ校の授業の様子

② セーフ スクール プログラム (テロからの脅威に対応)

- マリ国境から50kmの地域。ユニセフは、暴力、テロからの予防教育緊急対応プラン策定、心理社会的ケアの技術向上などを支援し、学校のレジリエンス(回復力)を高めている。
- セーフ・スクール・プログラムを実施している学校では、子どもも詳細に緊急時の対応を説明することができる割合が高い。機敏に、無言で非難し、日ごろからの指示が徹底している。



テロ対応避難訓練の様子

★ 水・衛生に関する支援事業

- 国民への水の供給という点においては大きな改善を見せている。現在では**5家庭中4家庭は清潔な水**を入手することができる。
- 衛生設備の利用率は著しく低い水準に留まっている。国民の20%しか適切なトイレを利用することができず、農村部では、**10家庭中7家庭が屋外排泄**を行っている。

① コミュニティ主導型総合衛生管理プログラム(レオ市の村)

- ★農村地域では75%が野外排泄を行っている。ユニセフとNGOなどで、コミュニティー自らが公衆衛生の重要性を見出すことを促す手法「**コミュニティ主導型総合衛生管理**」を推進し、レオ市の村では野外排泄撲滅に成功した。



実際のトイレ内部



実際のトイレの外観

2018年⇒225村

② 月経マネジメントプログラム(ベニの学校)

- ブルキナファソでは、**大多数の女の子が生理の間学校を休んだり**、学校での活動に消極的になっている状況があった。
- 少女が直面している問題をより深く理解し、解決するためにユニセフは「**女の子のための水と衛生プログラム**」を学校で実施している。コミュニケーションツールの開発、学校関係者の研修などを通じて、プログラム実施の環境づくりなどを行っている。

- 研修を受けた教員は現在**14,646人**の女子(中学校66%、小学校33%)及び**3,879人**の男子(人道支援下での青少年1,000人を含む)に対して**思春期教育**を行っている。



女子専用トイレ



プログラムを男子生徒も共に学ぶ

★ 栄養・保健に関する支援事業

① ポボデュラッソ地域病院における5歳以下の子ども栄養失調 治療センター

- ブルキナファソでは、5歳以下の子供の4人に1人が慢性的な栄養失調の状態にある。ユニセフは「**人生最初の1000日**」の間の栄養改善が、それぞれの人生の最良のスタートを切れるように、乳幼児期に必要な栄養改善と治療を強化するために政府を支援をしている。

- ・**統合的急性栄養失調マネジメント**は国内全ての1,955医療機関で採用されている。2018年に、70の保健管轄区で、そのまま食べられる治療食で**150,805人の子どもの治療**を支援した。



栄養治療を受ける乳児



栄養治療用ミルク

【現地視察を終えて】

- ★ブルキナファソの子どもから大人までの「ボンジュール」の丁寧な挨拶と握手に優しさを感じながらも、若い世代の多い国として力強さを感じた。
- ★ユニセフ現地事務所のクオリティの高いプロジェクトの内容とその進め方に、募金が大切に、有効に使われていることを実感した。
また、NGOや様々な団体と協力しながら幅広くお互いの専門性を生かしながら支援していくことの良さを学ばせてもらった。
- ★日本の状況と比べるのではなく、ブルキナファソの人々の努力で課題がクリアできている姿を目の当たりにして、before⇒afterと、更に発展するように、地域組織として活動するユニセフ協会も応援をしていきたい。
- ★「水と衛生」の『コミュニティ主導型衛生管理』により、1年で野外排泄撲滅に成功したことや、『月経衛生マネジメントプログラム』が男子の理解や各家庭への啓発に繋がっていることに、成功の質の高さを感じた。
- ★モデル事業で取り組んでいるところを多く視察したが、主体者の思いを大切にした自立への支援が素晴らしかった。これらの成功体験から、今後ごみ問題もきっと解決する日が来ると考える。
- ★ユニセフは、「魚を与えるのではなく、魚の取り方を教える」「人生最初の1000日が人生を変える」の言葉が、ユニセフ視察研修で心に残った。

unwish の仲間たち!

日本ボーイスカウト連盟 佐賀第5団のみなさん —佐賀市—



日本ボーイスカウト佐賀第5団の皆さん

ボーイスカウト佐賀第5団の 成り立ちと理念

◆ボーイスカウト佐賀第5団は、ボーイスカウト日本連盟の理念「社会奉仕活動や自然の中での体験などを通して青少年の健全な心と体の育成に貢献する」のもと、2006年 発足し、今年で13年目を迎えます。

“なろう。一人前に。”をキーワードに、子どもの自主性に基づいた活動を続けています。具体的な活動は、キャンプや登山などの野外活動、バルーンパレードでの奉仕や清掃奉仕、募金活動などの社会奉仕活動にも取り組んでいます。

ボーイスカウトは、小学1年生から25歳までで、年齢に応じて5つの部門に分かれています。現在、団員数は4部門で18人です。ビーバー (1人)、カブ (7人)、ボーイ (5人)、ベンチャー (5人) です。

佐賀第5団の 多彩な活動

川でのカヌー体験



この写真は神埼でカヌーをした時の写真です。カヌーできょう争をしました。何回もカヌーから落ちそうになったけど、がんばったら落ちなかったのが良かったです。

わたしはカヌーをすることが初めてだったけど、上手にこぐことができました。

とびこんだりもしました。最初はこわかったけど、うきわがわりのきゅうめいベストをきていたのでおぼれずによかったです。



巨石パーク登山



人気の「すごろく電車」 (出た目の数で駅に降りる) を楽しむ様子



バルーンパレードでプラカードをもつ国際奉仕活動

自主活動のねらい

キャンプやハイキングなど野外での活動を積み重ねることで自らを逞しく成長させる自然と親しみをもって接し、生きる力を習得していきます。活動は、班や組など異年齢の小集団を形成して行われ、集団の中での役割を果たすことで、自主性を高め、子ども達がより良き社会人になるように育成していきます。



◆ボーイスカウト佐賀第5団の皆様とは、ずっと一緒に、年末の『ユニセフハンドインハンド』募金活動をさせていただいています。

小学1年生のビーバースカウトさんから高校生のベンチャースカウトさん、保護者の皆様までが「ユニセフへの募金活動にご協力ください。!」と呼びかけてくださいます。毎年のご協力もあり、声も大きく、心を込めて活動をしてくださるので感謝をしています。



12月ユニセフ募金活動の様子

現在、ボーイスカウトの募集をしています。体験にいつでも来てください。FBやSNSでも配信しています。それを見てぜひ参加してください。多くの人に知ってもらい、入っていただき、子ども達の成長と社会奉仕の力になってほしいと思います。だれかのために役立つ人になってほしいと願い活動を続けています。



辻さん

(語り：カブスカウト隊 隊長 辻慶子様、取材：江島きよ子)